

当面の技術対策（畜産編）

令和4年9月15日

発行：ゆとりみらい21農業推進協議会指導部会

サイレージ用とうもろこしの収穫

本年は日照時間が短く降水量が多い高温多湿の気象条件になっています。一方、サイレージ用とうもろこしの登熟状況は、9月7日（平年比+3日）に糊熟期を迎えています。このまま推移すると9月20日頃に黄熟期を迎える見込みです。収穫では以下の点に留意してください。

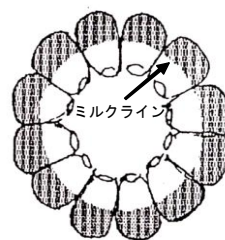
（1）生育状況を確認しましょう

品種やほ場条件により、登熟状況に差があります。また、「ごま葉枯病」と「すす紋病」の発生も見られます。特にすす紋病により茎葉が枯れ上がると、光合成が妨げられ、子実収量の低下や消化しづらい繊維の増加につながります。発生程度が著しい圃場は、子実の登熟状況を考慮しながら、収穫を早めることも必要です。各ほ場の状況を確認し、収穫作業の計画を立てましょう。

サイレージ用とうもろこしの収穫適期は黄熟期です。表1を参考に黄熟期を評価しましょう。

表1 黄熟期の判定方法

- ・子実表面の水分が抜けて爪で押さえてもつぶれづらく胚乳部分がポロポロ崩れる。
- ・子実の品種によっては頂部が凹む。
- ・子実の付け根部分が黒っぽく変色する。
- ・子実の黄色と白色の境目（ミルクライン）が芯の方から1/2～1/3部分に見られる。
- ・ミルクラインは先端側断面で評価する。



ミルクライン

（2）状況に合わせて切断長を調整しましょう

適切な切断長は、コーンクラッシャー（破碎処理）の有無と熟期によって異なります。下記を参考にハーベスター切断長の調整をおこないましょう。

<コーンクラッシャーなしの場合>

- ・糊熟期～黄熟期：設定切断長10mm前後
- ・完熟期やすす紋病ほ場：設定切断長6～9mm

<コーンクラッシャー付きの場合>

- ・糊熟期：設定切断長10mm前後（ローラー幅は最大に広げる）
- ・黄熟期：設定切断長9～14mm（ローラー幅は1～3mm）

※完熟の条件やすす紋病などで枯れ上がりが激しく、踏圧作業に支障が出る場合は切断長を短めに設定

※子実の傷はもちろんコーンコブ（雌穂の芯）の破碎程度（8分の1以下）も確認しながらローラー幅、切断長を設定する

ローラー幅を狭めることで子実や茎葉に傷がつき、牛の消化管内での消化率が上がります。子実が堅くなる黄熟中期以降は、破碎処理を実施しましょう。一方、糊熟期（子実にツメがささる状態）に破碎処理をするとサイレージの廃汁と共に栄養が流れ出てしまいます。**糊熟期での破碎処理は絶対にさけましよう。**

病害の発生程度と登熟状況の判断、収穫時期に伴う設定切断長などに関してご相談がある場合は、JA又は普及センターにお問い合わせ下さい。